別3
4

国立国会図書館　タイトル『御伽比丘尼 5巻』 請求記号 本別3-4

ガラス使用

別 3
5
4

大正
12. 4. 25
購求

河汀

御伽比丘尼巻之二

一 粒黒理ハ重し 付り好物問答

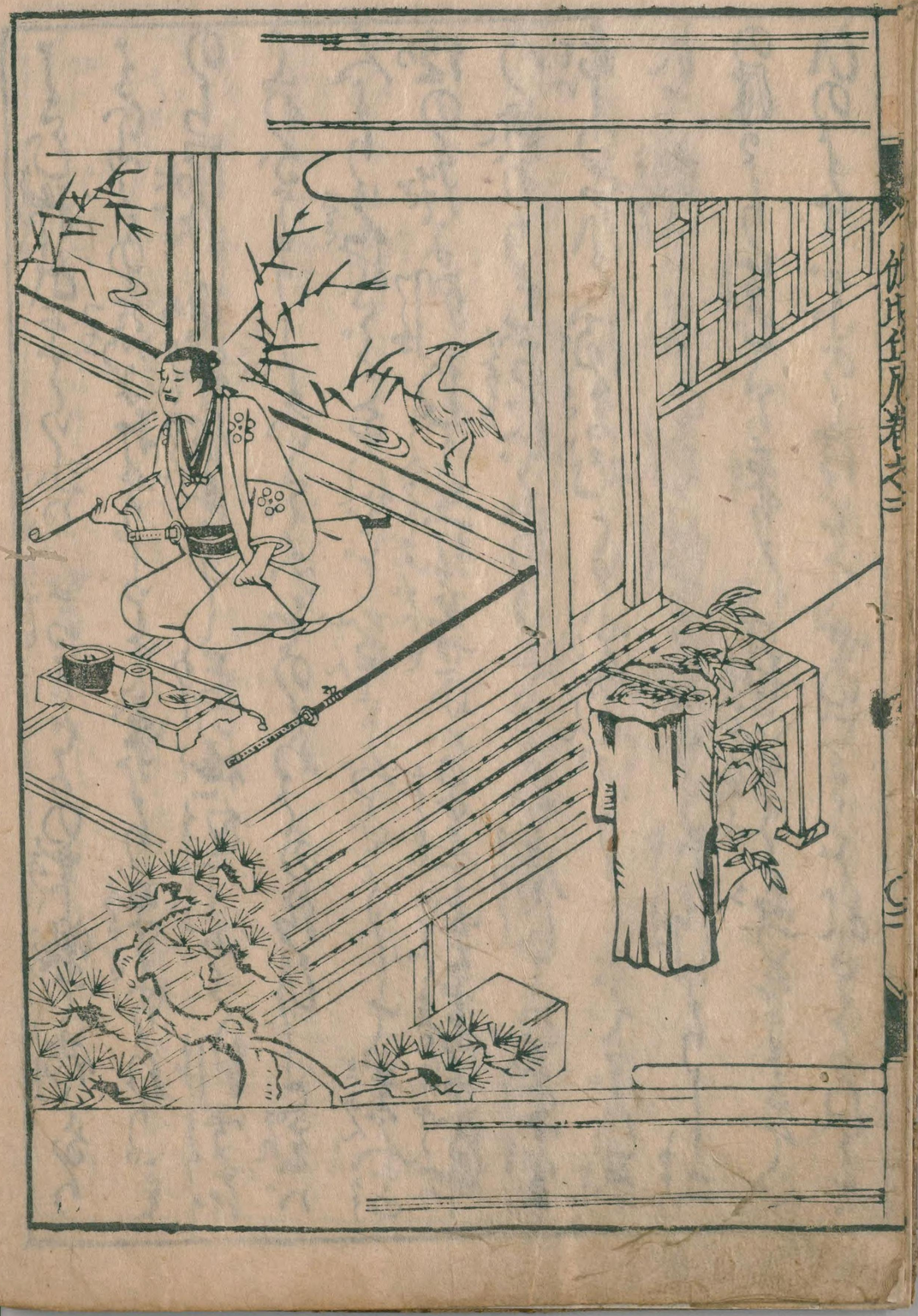
武蔵江戸乃ある御伽中ニ何のし此孫宗次助の妻と
このやいふ人あり。侍者此中なるべしと云ふ
ふりく。隔なき友なりしが。孫宗次ハ酒沢好てしば
しとさらふ事人に過ぎり。肥の妻ハ又しばしとすきて
重ハまにばかりしを。二人とも無吉賀者とのゝ
のきこゑなりし。ある夜れ高れいとまし打よりて。世の
噂しけるはめで。母の妻ハ日沢ことの酒をさひ。この
こゑふ事人に越ぬり。見りし難業にして事血をめ
ぐしまり。高きゆなり。代加に過酒をれば廣ゆおとろて

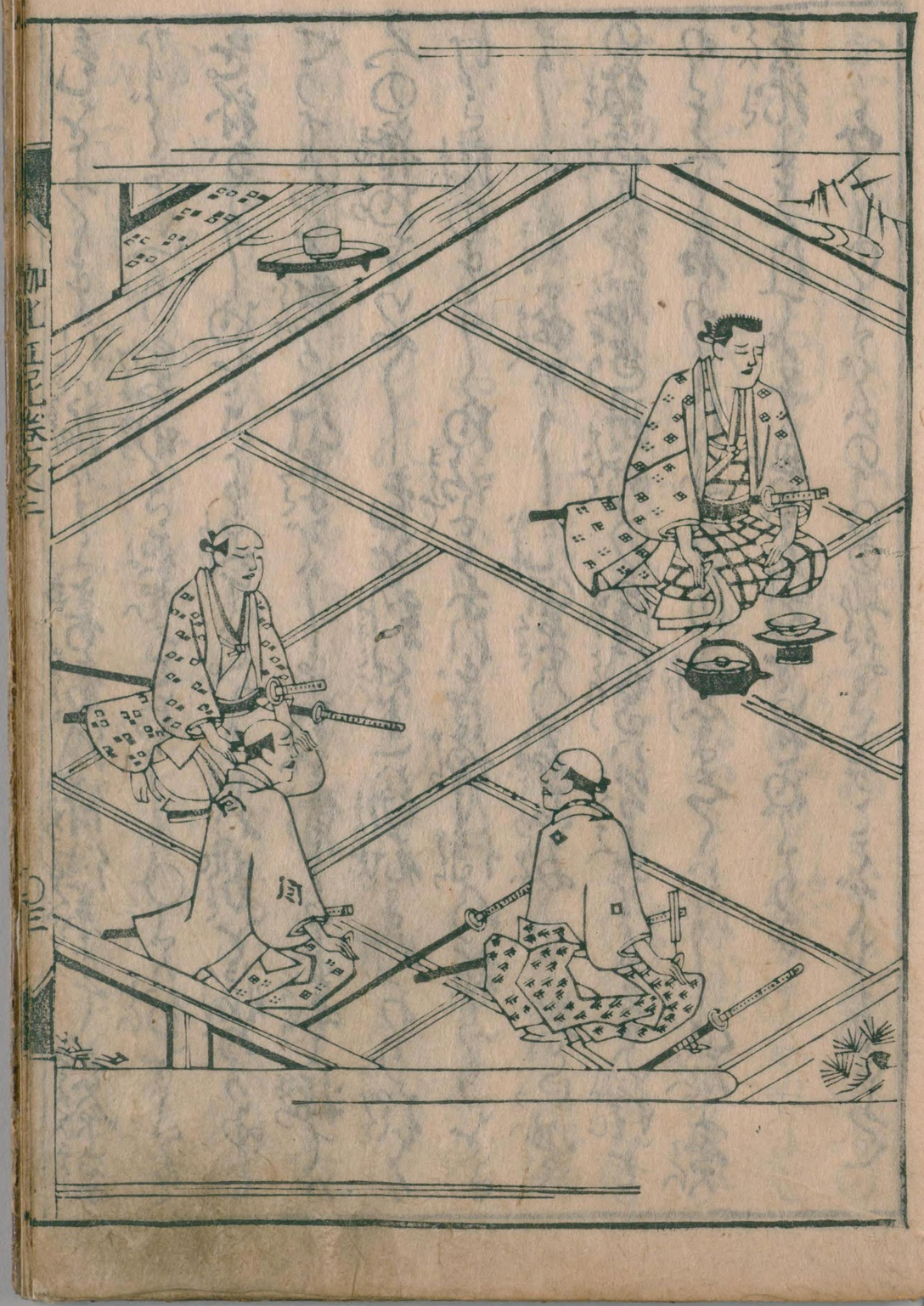
国立国会図書館　タイトル『御伽比丘尼 5巻』 請求記号 本別3-4
ガラス使用

肺血を生じ熱脾に滞ては又内傷の病となり。志す
のこなすぞ仏はみのひとつに戒め乳母と酒をうはしてれ
しへ語へり。今ひきまゝが大海。紙見るにたそくゝ命を捨
ずるれりとなりといふに。孫家沈打笑げかや。殘に目れが
一尺を忘れて。化の一寸を志るといへ語さしとなるれ。さしの
ことにも人のものはみえ侍るかや。凡こゝろこれぞ救苦
をみろに勢まぐさまりかゝぞ。させられたかりいと両ねし
此草は乞毒素にて寒をのがし。病と生じ喧逆の患
ありさればよしかきねゆへ。多中れついへ。いくぞくぞや
仏は草は一蛇をあしばさりんといふに。みのを守て寒
んにはたをかりしまさんいでしらばさぞの酒をうたり

よさむ柳此草といふは淫蕩させるの東瀬て鳴とかり
まいかさの病に打まじ。草なりは草木なれり。こ
のら陽神陰神殿まし。天の砲包丁かく刻守石
ておかさまし。よいこぞ。おとのとめとの結ひしと云ば
人より先にこぞ。あしだぞ。草ぐぶうして。美人富
佐の姓に別れて。至仏世にはは草木生ち寒冷女佛
乃殺あり。乞おたぞ。おのるやとこや。唐にては玄宗皇
帝のさひ人。楊貴妃といふ女人何りしが。ぞ。ぞひ家
にて殺さり。帝此おを殺さ。名称かく前御なりし二
のほかより生むさる草なれば。おさ草と名づをさきて。こ
ひのよすがにのこほぎて。世のひとのこどれさしかれとも

国立国会図書館　タイトル『御伽比丘尼 5巻』 請求記号 本別3-4
ガラス使用





国立国会図書館　タイトル『御伽比丘尼 5巻』 請求記号 本別3-4

ガラス使用

ど鶴を祈んゆゑ。大黒天神を勧請しいつもきの
へ子の日は供物うどこうく燈明をうしをかどう
かかりけるぞ。ある月又きのへ子よりて何のごとく燈
うしぎて一人は祈念するよ。いづこともかく白き鼠の大
きかるが勿然と飛れ出て。供物を食ひ取事うき気を
ゑるより背ぐるや祇さし法日とろ念ずる此弾無じてぶく
神のつゝは志めぞ今夜は来現し給ひなどよろこびわひ
てぞ何をの日は志すしき友どちよびわけあ此事は祇
なりぞどゝきをなし日くるしき所のえんをうさぬ友ど
ちの云げよめてこそ鶴は待りぞれば白鼠とやらむは
名のしゆゑて来ゑるなりし。此は物ぐるりのこゝろあも待

せぬ人の世のわざかなるさ内。又ひとし此むゑんすもぞ又はこのむ
べき最かれしたりへばぞとおれし山本のなりこゝ。川こうる鼠の
穴はんをさしさて文右の東をふるゆめば気なん東三
条の林にこうや鶴はこゝろこゝろ斗なりて又西ぞ。は淫芳
鶴の化鳥ひ下なり飛出て。稀裏は実をなりしける鶴なり
しとつぎて思諸のさと聖護院村なりぞおるゆゑは西
はこゝろびくとよみ給ひし。紫雲山新くろぶにをな
りバ。此西女所にしたむゑん此淫末神をはし祢てさくらは
はしじ。おそへこゝろぞみぬ人のこゝろがなる。稀山をとゝえて
吉田の山社にまうしぞ。柳山御神は貞観の吉中納言
山蔭つ此こんなさし勧請ありしとぞ大内ぢうく文吉ま

しく幸福のもろ人をもつかはすいちまうじ。ぷれかし
善好の給ける旧給ひりぷ。左斗此の他の人なりしかども
名のしかりて今はめかれわ事のこぞ生成れるぷを給
ひりぷ。あるのべよ人かなくしれめて立ちるべくもか
くわかるまのしちもおかるへりしるいかるまめやと給
れば。吉映奴づかさ女の死るごの鬼になりしるよ侍りと
さてめづらかるあ鬼をも使けるまよしおいぢらく立
めかりぷ。人のきさるよりさし祝ぷさしも鬼といふべきにい
あし孫どいふに孫ゑこそてうさる。むのぷろうしいふく逆に
ゑち。月の月朱のちしかよりしるを見ん出しぷ。かりもまも
ろろく物ぶちゑれば。宝鬼といひけるもあるぷ。

まのやうを使ふに上京乃三邑に何がしの民ぷとこやうに好
の男なり。日比頼女にかよひて。若のぶ山ゑふ人めれ実をもひ
此比かひいかなるゆかふうつしき妾を起てぷ。今なくちぎ
りわひけるとぞ。此本書三性物語ゑこふるぞし月
出ひをこがしめりてかけくなるとなのまていとぞ恨いき
どかりぷ。姫宮を夫にはげるを我がもひのかむしかくそ姫
といさまに。あるはあつき湯をおかけてぴさけのあれを
きかつりしかくやをけむ。恨りしの夫やと愧さよのしるに
民ぷも今はりておつかひ善ぷやくもかしひて祝さしへ
ゆしつかりしぬ。是より此女人相乱して。聖をもしつ山を
かけ。わかり。孫にもらかりしきかりしきなりしがぷ。此而に

国立国会図書館　タイトル『御伽比丘尼 5巻』 請求記号 本別3-4
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『御伽比丘尼 5巻』 請求記号 本別3-4
ガラス使用

さんぱ気は立雲かり川なりてゆきうくの人は行りしぼとく
繰り捨りしぼのとなく名称信ちちは出てせまりけまだは
ワかうどれ信ひげ人田の斗は立やまとひかけ我ぞもの女くて
は日をいさしさを行ふ人分ぐいさめ漸くさとに通りぬぼとぐ
さにかさつかき女れ又なく恵羽けれどぼまる斗とやせん
かくやりとり乱て置は人へやまとひを包束は洞りとこまれて
せひつぐれば白波のわしなきさまり身を風う波のしるべ
なりけるとよんしぼ気は又雅をしてくといひ遠くん
よすがしなくぴまは恵だかんよりは神ぬと仏ぬと祈れ
るやとはをさるけき青羽山乃釈世尊はちるのまとでをかし
なり満泉ハはまぶ雨やしねまいりつきて自然弱でをぞし

けるさきはんどりなるうをゆりさぬぞ。白きゆるこひとへはなり
て流よりか雲をめぐり。異乃おまは鳴ぐるまこ千ニ反り
なん生けるさかさぶに白く清らなる女れ松をさきなりて。
毋さいろんなるなし。二千ニ反祈りて女若者のそしに出て
祈やう我ひ祈ひ祈れし我ひ月法恵しき男は生よしの
えかしたらばぶさひより下へとぞせてたべ乃後とかきは待らば
は男をあの木乃枝よりけて祈どりて結れぬかひるんぜ者
とりの友は飛んとするを得ぬり今志ぐしといぐきさぶて。
先れとりせ待るぼやさしくも我れなるんさんぺりかるとをひ
祈ひよへよく仏と我祈祈をとりけてぜちまはなりひ結ひるる
ぶといへば女押さ川ふさぞるぐしかぐし今はの雅まへ何をち

国立国会図書館　タイトル『御伽比丘尼 5巻』 請求記号 本別3-4
ガラス使用

まのこち。仏閣に祈すとしひさしいつの祈りのかりに
小の方ゝちたゞなくぞ月りさなりて山産の祝さことにや
をしかなりぬ祝かんちて玉乃おとさぬ。ゆゑ君なれは上ざ母はふ
も史なりけり下がしをしまうあびあへ都さ海ことしへなし
医師の何がし法服成侍れ女香さしげ来れば。謝法の功
志葉れ弓箭の矢をとりて魚魔をとらひ子孫なりかで
しき親夫婦をえらこしして。初湯をさいしせなぞさこ
とよかごろかなりしされども東帰し給ふとなるぞ
しく。自救無くやまずまりしくけれどよ。ほとのあれめ
のと女房をたゞめ侍は一月れとなるこよなるこのてひきめ紙
なりしきたうの事れなすぞ。ほぎの月よりけて東をしまぐ

ゆめもむしてだす。ひるす虫の事きこし。石ちゑ何がしとかやいふ
老功の侍をめし。素姫に給ふくめらるゝすなりちゑし
こまりして。老に成り先清嫁の味にして三七夜れ垢離をとる
内外清浄の身となり。鶴来すぐれ花やかに白栗毛なるを
に書同ふて巴摺たる鞍毛袋まとり摺絹擇をとらひて
御孫の嫁に成りたる山ゐ事をこゝろのり寄大寄契りして持
ひ虫の事護何がし男に娶生あるところにし東帰し乃
まぐりひ立てやむことを好ぎぞやくひ鞄をさし先ゝべし
おしたらしなきよかねて。一虫おしも狐狗あるべしと
の給よりて。ちゑ何がし。其むりひ侍るとよぎりつてかくを
たる供物をうかへ事をひかへ咒を書するとみんしが血大さ

国立国会図書館　タイトル『御伽比丘尼 5巻』 請求記号 本別3-4

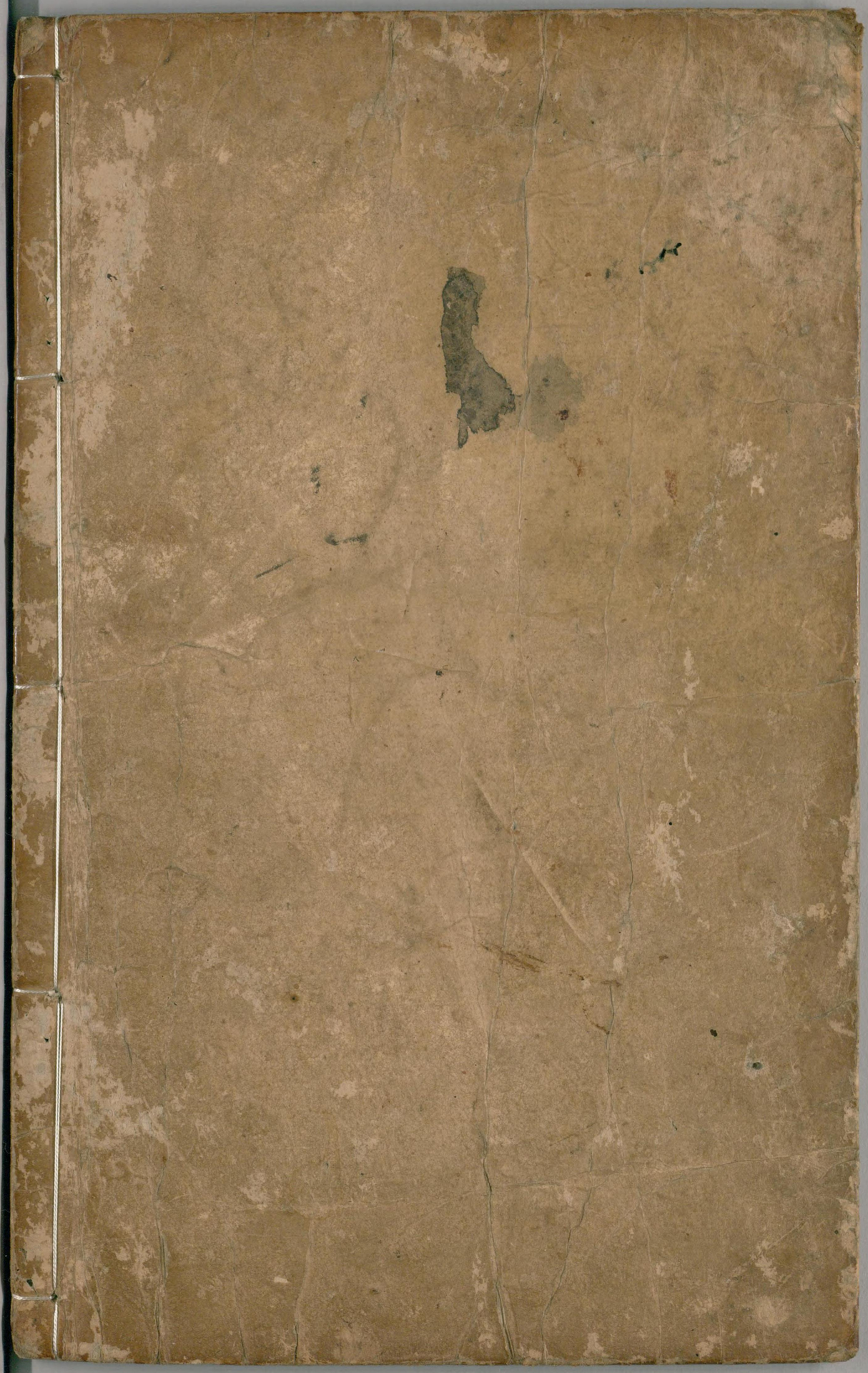
ガラス使用

別 3
5
4

なる白狐出て佐和をとりてくるやしぬ雪雨をせいりてたん
の源戎をとりよれば玉の雪ゆきげんよくゝみたせ給ひし
色より栗帰とぞまりてめでたく生長給ひしが御智愛
明れ名相めてかはしけるとぞかし御母狐の親をこそ雪獲
の親を守じけるかゝる寺和が御をなかしけるゝ知ふ
心義なりくりし

御伽比丘尼巻之二

国立国会図書館　タイトル『御伽比丘尼 5巻』 請求記号 本別3-4
ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『御伽比丘尼 5巻』 請求記号 本別3-4

ガラス使用